

# 小学校家庭科における確かな学びの力を高める 指導方法の検討

— 題材構成の再検討と学習形態の工夫 —

外山かおり\*・外山敦子\*\*・伊波富久美\*\*\*・福原美江\*\*\*

**The Method of Teaching to Enhance Firm Ability of Learning in the Home  
Economics Education for Elementary School:  
Review of the Subject Matters and Device of the Learning-form**

**Kaori TOYAMA\*・Atsuko TOYAMA\*\*  
Fukumi IHA\*\*\*・Yoshie FUKUHARA\*\*\***

## I. はじめに

附属小学校では、平成18年度以降は「確かな学びのある授業の創造」をテーマに研究を推進してきた。そして、確かな学びを生み出す指導方法として、①学習形態・場の工夫、②教師の言葉かけの工夫、③教具の工夫、などを中心に進めることが計画された<sup>1)</sup>。家庭科においても、家庭科の学習指導のあり方を工夫することによって、「確かな学びのある授業を実現できるであろう」という研究仮説のもとに取り組んできた。

本研究では、このような全体的な研究テーマのもとに実施した附属小学校における家庭科の指導方法を検討するために、とくに年間指導計画の再検討をはじめ、題材構成や学習形態、資料・教具を工夫した学習指導過程を立案し授業を実施したので、その研究成果の一部を報告することにする。

## II. 研究の内容と方法

本研究の内容と方法は、以下の通りである。

第1に、家庭科における確かな学びを支える2年間を見通した題材構成を立案し、とくに「生活に役立つ物の製作」に関する題材を構成し、さらに学習形態と資料・教具等を工夫した指導過程を作成した。年間指導計画の作成については、従来の年間指導計画を大幅に見直すことにした。その理由は、従来の年間指導計画には、以下のような問題点があったからである。

- 学年の最初に6年までの年間を見通した題材がない。
- 製作において段階的な題材の配置ができていない。
- 住まいや金銭の題材がない。

---

\* 宮崎大学教育文化学部附属小学校  
\*\* 宮崎大学教育文化学部附属中学校  
\*\*\* 宮崎大学教育文化学部

○教育実習で学生が授業しやすい適当な題材になっていない。

第2は、年間指導計画の再検討は、平成20年3月に新学習指導要領が告示され、平成23年度から全面実施に移されるからでもある。とくに、新学習指導要領における家庭科は、これまでの実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習がさらに重視され、習得した「知識・技能の活用能力」と自らの「課題発見と課題解決能力」の育成を図ることが一層重要になった。その内容は、以下のように従来の8項目から4項目に再構成され、「衣服」と「住まい」の学習内容は「快適さ」をキーワードに再編統合され、また「身近な消費生活と環境」が新設された。このような小学校家庭科の内容は、中学校技術・家庭科「家庭分野」の内容との系統性や連続性を重視し、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から再編統合された<sup>2)</sup>。したがって、本研究では、実践的・体験的な学習活動と問題解決的学習、「知識・技能の活用能力」などに留意して研究をすすめるとともに、附属中学校家庭科における内容をも考慮して立案することにした。

従来の小学校家庭科の内容	新しい小学校家庭科の内容	新しい中学校技術・家庭科「家庭分野」の内容
(1) 家庭生活と家族 (2) 衣服への関心 (3) 生活に役立つ物の製作 (4) 食事への関心 (5) 簡単な調理 (6) 住まい方への関心 (7) 物や金銭の使い方と買い物 (8) 家庭生活の工夫 (平成元年告示)	A 家庭生活と家族 B 日常の食事と調理の基礎 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境  (平成20年告示)	A 家族・家庭と子どもの成長 B 食生活と自立 C 衣生活・住生活と自立 D 身近な消費生活と環境  (平成20年告示)

第3は、「知識・技能の活用能力」を重視して題材を見直すために、「生活に役立つ物の製作」を取り上げ、さらに5年生の最初の題材である「針と糸を使って」(10時間)の授業を中心に研究することにした。その場合、「確かな学びの力」をはぐくむために、ペア学習を導入した学習形態、個人差のある生活技能を「確かな学び」にしていくための掲示資料や教具等の開発などを中心に研究を進めた。

研究方法は、資料1のような「研究仮説」に基づいて、指導過程を立案し授業を実施した。授業過程は、ビデオに撮影し、特に学習形態と資料・教具の効果については、子どものノートや学習プリント、作品による自己評価、個に応じたためあての達成度による評価などから考察した。

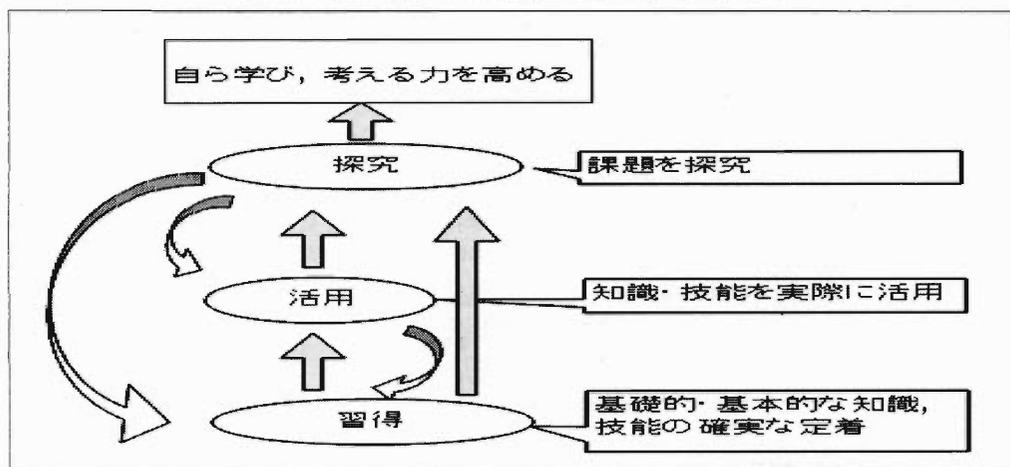
5年生から始める家庭科の学習には、どの子どもも高い期待と関心をもっている。たとえば、家庭科の授業開始前に5年生にアンケートをとったところ、9割の子どもが新たに始まる新教科「家庭科」が「好きである」と答えており、「きらい」と答えた子どもも「裁縫や調理ができるようになりたい」「将来、役に立つ学習である」と、期待と関心を抱いている。しかし、学習が進む中で、自分の思うように作品ができなかつたり、覚えられなかつたりすることが出てくると、「好きではあるが苦手」「調理は好きだが、片付けは余り好きでない」など、「好き」の割合が少しずつ減る傾向が見られる。特に技能面での指導を要すると評価した子どもにおいて意識の低下が見られるため、十分な手立てを講じ、授業の中で確実に基本的な技能を身につけさせる

ことが必要である。このような実態の中で、授業において生活を工夫する楽しさやものを作る喜び、家族の一員としての自覚をもった生活の実感など、実践的・体験的な活動の充実を図り、家族や友達と協力して、楽しく豊かな生活を創造する子どもを育てることで、「確かな学びの力」を付けることができると考えている。

附属小学校における「確かな学びの力」とは、生活体験や実感の乏しい子どもたちの実態を踏まえて、実生活とのかかわりを大切にした授業を行い、どの子どもにも、基礎的な知識や技能を習得させ、「活用」と「探求」をくり返しながら深めたことを自分自身のこととして意識し、さらに家庭生活にも「活用」していこうとする力のことである。

つまり、家庭科における「習得」とは、「基礎的な知識や技能を身に付けること」であり、「活用」とは「身に付けた知識や技能を基礎として実際に使うこと」、「探求」とは「活用する力を基礎として課題について探究すること」ととらえている。

### 資料1 家庭科における習得・活用・探究の考え方



## Ⅲ. 研究の実際と考察

### 1. 問題解決的な学習のための題材構成

#### (1) 年間指導計画における題材配列

子どもが自ら進んで問題解決的な学習を行うようにするために、以下の4点に配慮して5～6年の題材配列について再検討した。その結果、資料2のような年間指導計画（平成20年度以降の題材配列案）を作成した。

- ① 前述したように、平成20年度までの年間指導計画の問題点を改善して再構成した。
- ② 5年の最初に2年間の学習の見通しをもたせる内容を設定した。
- ③ 新学習指導要領における「C 快適な衣服と住まい」の「(3) 生活に役立つ物の製作」は、2学年にわたって取り扱い、基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへと、段階的に学習できるように題材を配置し、主体的な学習が行えるようにした。

④とくに附属中学校家庭科の内容を見通して、系統的な指導計画を立てた。

平成20年度は、資料2のような2年間の題材配列案に基づいて授業を実施してきたため、子どもが見通しをもち、能力に応じて活動することができるようになった。また、題材ごとや学年ごとにおいても「基礎とする内容」や「くり返し技能を高めるべき内容」が明確になり、それによって子どもに必要な資料や助言（言葉かけ）を整理することができた<sup>3)</sup>。平成21年度は、新教育課程の移行期であり試行段階であるため、実際に授業を行う中で、さらに改善点を明確にしていくことにしたい。

資料2 家庭科の年間指導計画（題材配列表）

		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		
5年	家庭科の学習にあたって(2)	自分の成長と家族(2)	自分でやってみよう(19/23)								自分でやってみよう(4/23)	健康を考えた生活をしよう(4/15)				
			調理器具の使い方(4)	包丁を使って(5)	針と糸を使って(10)	身の回りを整えよう(4)	食べ物のひみつをさぐろう(4)									
6年	よりよい生活について考えよう(2)	衣服を整えよう(7)	生活を見直そう(10)								金銭や物の使い方を考えよう(4)	楽しい食事を工夫しよう(4/12)				
			生活時間の工夫をしよう(2)	朝食にあうおかずを作ろう(8)	一食分の食事について考えよう(4)											

		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
5年		健康を考えた生活をしよう(12/15)								ミシンヲ使って(13)		家族とのふれあいをもう(4)	
		作っておいしく食べよう(7)	快適な住まい方を考えよう(5)										
6年		楽しい食事を工夫しよう(8/12)								生活に役立つものを作ろう(10/14)		よりよい生活をめざして(5)	
		オリジナル料理を作ろう(8)	生活に役立つものを作ろう(4/14)	地域とのつながりを広げよう(5)	これからの生活を見つめて(1)								

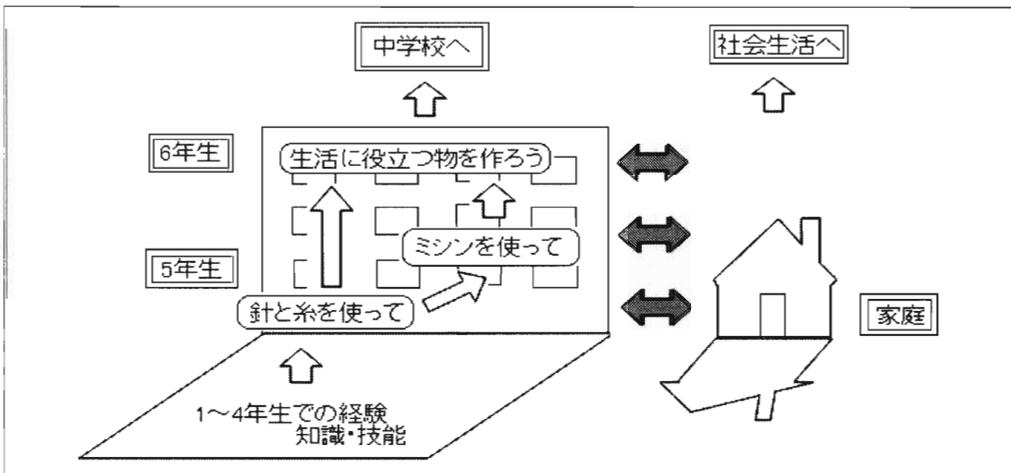
(2) 「生活に役立つ物の製作」における題材構成と分析

2年間の学習の見直しをもち、指導方法の工夫を行い、評価したことを次の学習へと生かすためには、学習内容それぞれにおける系統性や指導の重点を捉えることが必要である。そこで、新学習指導要領の「C(3)生活に役立つ物の製作」の内容を分析し、これを中心とした題材構成を立案し考察した。新学習指導要領では、本題材での指導事項は、以下のように記載されている。

C 快適な衣服と住まい  
(3) 生活に役立つ物の製作について、次の事項を指導する。  
ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。  
イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。  
ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。

そこで、本研究では「生活に役立つ物の製作」の内容に関する題材構成の概念図を、資料3のように3つの小題材から構想した。各題材においては、子ども自身がそれぞれ学んで身につけるべき基礎的な知識や技能がある。5年では「針と糸を使って」「ミシンを使って」を学習し、6年で「生活に役立つ物を作ろう」を学習する。5年の「針と糸を使って」では、針と糸の基本的な使い方、ミシンの使い方が基礎的な知識・技能であり、確実に「習得」すべき内容となる。この習得した内容をもとに、6年の「生活に役立つ物を作ろう」では「探究」・「活用」を行うことになる。しかし、子どもによっては授業の中だけでは、基礎的な知識や技能を十分に習得ができていない場合もあるため、活用段階ではあっても、基礎・基本を確かめながら習得を行う場面も出てくる。

資料3 「生活に役立つ物の製作」の内容に関する概念図



次ページの資料4は、以上のような概念図に基づいて「確かな学び」のある授業を構想するために、3つの各小題材における「基礎的な知識と技能」の「習得」「活用」「探究」にかかわ

## 資料4 「生活に役立つ物の製作」に関する題材構成

学年		基礎的な知識・技能の習得	知識・技能の活用	探求	時数	指導内容		
5年	1学期	<b>自分でやってみよう 針と糸を使って</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 針と糸を使って自分にできる簡単な製作をしようとする。</li> <li>○ 針と糸を使って自分にできることを工夫することができる。</li> <li>○ 針と糸の使い方に関する基礎的な技能を身に付けることができる。</li> <li>○ 針と糸の使い方や基本的な縫い方について理解する。</li> </ul>			10	A(2) ア、C (1)イ、 C(3) ア、イ、ウ	
		1 針と糸を使って布を縫うよさや経験などについて話し合う。	布のよさ		布でできるもの	1		
		2 玉結び、玉どめ、簡単な縫い方を調べ、ネームプレートなどを試し縫いする。	糸通し、玉結び、玉どめ、ぬいとり、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ボタン付け	ネームプレートの製作	基本的な縫い方	2		
		3 用具の名前や針の扱い方を調べ、必要なことを確かめる。	用具の名前、取り扱い	用具の安全な取り扱い	用具の使い方	1		
		4 練習布を使って基本的な縫い方の練習をする。	糸通し、玉結び、玉どめ、ぬいとり、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ボタン付け	ネームプレート、練習布の縫い方、デザインの工夫	目的にあった縫い方	5		
	5 作品を見せ合い、よさを発表する。		針と糸を使った作品 家庭実践	自分の作品の工夫点の分かりやすい説明 友達の仕事のよさを今後の自分の作品に生かす	1			
	2学期	<b>ミシンを使って</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ミシンで作った生活に役立つ物に関心を持ち、製作しようとする。</li> <li>○ ミシンを使った作品を自分なりに工夫することができる。</li> <li>○ ミシンの安全な使い方がわかり、直線縫いができるようにする。</li> <li>○ ミシンの安全な取り扱い方、製作に必要な材料や手順を理解する。</li> </ul>			13		C(3) ア、イ、ウ
		1 身の回りにある布製品を調べ、どのような場所に、どのような目的で使われているか話し合う。	布の性質や特徴	材料の選択	材料の選択の仕方	0, 5		
		2 ミシン縫いと手縫いを比較して、ミシン縫いの利点を話し合う。	ミシン縫いの利点		手縫いとミシン縫いの違い	0, 5		
		3 ミシンの正しい扱い方を知り、練習をする。	ミシン各部の名前 上糸・下糸のかけ方 返し縫い	直線縫い(からぬい)	ミシンの使い方 ミシンの安全な使い方	2		
4 直線縫いでできる簡単な物をつくる。		ミシン縫いの順序	しるしの上を縫う 方向を変えて縫う	直線縫い 方向の変え方	9			
5 学習をふり返り、これからの生活に生かすことを考える。		ミシンを使った作品 家庭実践	ミシンを使ってできること	1				
6年	2学期	<b>生活に役立つものを作ろう</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 布のよさを生かし、生活に役立つ物をつくろうとする。</li> <li>○ 手縫いとミシン縫いの違いやよさを生かし、工夫して製作できる。</li> <li>○ 目的に合う大きさや形、材料、縫い方を選んで製作できる。</li> <li>○ 生活に役立つ物をつくるために必要な材料や手順を理解する。</li> </ul>			14	C(3) ア、イ、ウ	
		1 生活の中で活用されている布でできたものを調べる。	布製品の性質や特徴		生活の活用場面	0, 5		
		2 自分が作りたいものを考え、布の種類や縫い方を調べる。	形や大きさの工夫 製作に適した布	適切な形や大きさ	どのような形や機能を持つか、目的にあっているか、使って便利か、好みの外観など	1, 5		
		3 形や大きさ、作り方を調べ、試し作りをする。	形や大きさの工夫	ゆとり、ぬいしろ	紙を使って、製品の観察、確かめながら形や大きさを工夫する	2		
		4 製作の計画を立てる。	製作に必要な材料や用具	手縫い、ミシン縫いを選択	形や縫い方、布の種類を調べる	1		
		5 計画をもとに工夫して製作する。	適切な用具を正しく使う	丈夫に縫う、針目を変えて縫う、ほつれやすい布端を始末する	部分にふさわしい縫い方を考える。	8		
6 製作したものを使ってみるの感想や活用について発表する。		日常生活で試してみる	次の製作の意欲をもち計画する	1				

資料5 「針と糸を使って」(5年・10時間)の指導過程

本題材で習得するもの キーワード	学習活動及び学習内容	子どもの意識・反応	評価規準
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の中の針と糸</li> <li>○ 針の扱い方</li> <li>○ 安全</li> </ul>	<p>1 参考作品を見て、どんな作品を作りたいか話し合う。(1時間)</p> <p>○ 題材のめあて</p> <p>簡単な縫い方を使ってオリジナル作品を作ろう。</p>	<p>針と糸で何か作ってみたい。</p> <p>初めてだけど、うまくできるかな。</p> <p>針と糸をもっと上手に使えるようになりたい。</p>	<p>○ さいほう用具を使って作品を作ることに関心をもち、自分のめあてを立てている。</p> <p>(関・意・態)【ノート・観察】</p> <p>A 自分の経験や能力に応じためあてを立てている。</p> <p>B 作品作りなど、活動に対する意欲的なめあてを立てている。</p> <p>C 自分にあっためあてが立てられない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ むいとりに必要な技能</li> <li>・ 糸通し</li> <li>・ 玉結び</li> <li>・ 玉どめ</li> <li>・ むい通りの仕方</li> </ul>	<p>2 針と糸を使って名前を縫いとする。(1時間)</p>	<p>針に糸が通らない。</p> <p>上手に名前を縫おう。</p> <p>玉結び、玉どめの仕方がわからない。難しいぞ。</p> <p>○○さんが上手だ。こつを教えてください。</p> <p>なるほど、玉結び、玉どめの仕方がわかった。</p>	<p>○ 玉結び・玉どめを使って自分の名前のむいとりができる。</p> <p>(技能)【作品・観察】</p> <p>A 試しむいをもとに、むいとりに必要な技能を見つけ作品を仕上げている。友だちにやり方を教えることができる。</p> <p>B 試しむいをもとに、むいとりに必要なことに気付いている。やり方を確かなながら作品を仕上げることができる。</p> <p>C どうすればいいかわからない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡単な縫い方</li> <li>・ なみ縫い</li> <li>・ 返し縫い</li> <li>・ かがり縫い</li> <li>・ ボタンつけ</li> </ul>	<p>3 手縫いによる簡単な縫い方やボタンの付け方を練習する。(3時間)</p>	<p>いろいろな縫い方があるな。使い分けよう。</p> <p>縫い目の大きさはそろっているかな。</p> <p>どんな縫い方かわからない。難しい。</p> <p>○○さんの縫い方を見たら、自分の悪いところがわかったぞ。こうしてみよう。</p>	<p>○ それぞれの縫い方の特徴の違いを理解している。</p> <p>(知・理)【観察・ノート】</p> <p>○ 目的に応じた簡単な縫い方ができる。</p> <p>(技能)【作品・観察】</p> <p>A 簡単な縫い方覚え、目的を考えながら特徴を生かしてきれいに縫うことができる。</p> <p>B 簡単な縫い方の違いを考えながら、丁寧に縫うことができる。</p> <p>C 縫うことができない。また、縫うことはできるが、違いがわからない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 製作計画</li> <li>・ 印・ぬいしろ</li> <li>・ はさみの使い方</li> <li>・ はさみの渡し方</li> <li>・ 縫う順序</li> </ul>	<p>4 練習布を仕上げ、ネームプレートの製作準備をする。(1時間)</p>	<p>さいほう用具の使い方や注意することをしっかり覚えただ。</p> <p>練習布が完成してうれしい。</p> <p>はやくネームプレートを作りたい。</p>	<p>○ 製作に必要な用具の使い方を理解し、安全に取り扱うことができる。</p> <p>(知・理・技)【観察・ノート・ワーク】</p> <p>A プレートを作るための用具の使い方を理解し、自分で計画を立て、用具を準備することができる。</p> <p>B 製作のための準備を友だちと相談しながら行う。</p> <p>C 用具の使い方がわからず、準備できない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工夫</li> <li>・ 丈夫に縫う所</li> <li>・ 針目の大きさ</li> <li>・ もよう</li> <li>・ 布の形</li> </ul>	<p>5 基本的な縫い方を使って、工夫してネームプレートを仕上げる。(2時間)</p>	<p>最初よりこんなにうまく縫えた。色の組み合わせをどうしよう。</p> <p>もう一つ作ってみたい。家の人に早く見せたい。使いたい。</p>	<p>○ 覚えた縫い方を使って工夫しながらネームプレートを製作している。</p> <p>(創意)【作品・観察】</p> <p>A 覚えたことを生かしながら形や縫い方を工夫して作品を仕上げることができる。</p> <p>B 簡単な縫い方を生かして、自分の作品を工夫している。</p> <p>C 作品が仕上がらない。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活が楽しく、便利になる針と糸</li> </ul>	<p>○ 家庭実践</p> <p>5年：ミシンを使って</p> <p>6年：生活に役立つもの</p>	<p>いろいろなことができそうだ。次の学習が楽しみだ。何か作ってみよう。</p>	<p>○ 生活に生かしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏休みの作品</li> <li>・ 日常のいろいろな場で</li> </ul>

る学習内容を整理して示したものである。授業の中で、基礎的な知識や技能を確実に身につけ、次の題材や家庭での活用を図ることができるように、学習活動には試作を位置づけ、問題解決的な流れになるように工夫した。

### (3) 「自分でやってみよう：針と糸を使って」(5年)の指導過程

次に、資料4の題材のなかで、特に最初の題材である5年の「針と糸を使って」(10時間)の具体的な指導過程を立案し、資料5(前ページ)に示した。ここでは、当該授業で「習得するキーワード」のほか学習活動及び学習内容、子どもの意識・反応、評価規準等を詳細に作成し設定した。このように、5年で何を習得し、それを6年のどこにどのようにならしていかを明確に関連づけたことにより、授業で身につけさせる知識や技能が明確になり、教師が指導の手立てなどをより鮮明に意識化することができた。また、評価規準を設定したことにともない、より具体的な手立てと指導方法が明らかになり、指導に生かせるようになった。

## 2. 授業の実際と考察

### (1) 学習形態の工夫—ペア学習の導入

授業の中で、子どもひとりひとりの様子を把握して評価していくことは、大変難しい。特に実技を伴う授業の場合、一人の教師が、すべての子どもに必要な手立てを講じることは、不可能ともいえる。

そこで、子どもの能力や課題に応じた学習形態を工夫した。授業の中では「ペア学習」を行い、子どもがペアや自分自身で課題を見つけ資料を活用することによって、課題解決ができるように段階に応じた提示資料の工夫を行った。子どもの様子を見ると、それぞれのペアで教えあったり、話し合ったりする様子が見られた。特に実技面では、得意な子どもと不得意な子どもをペアにしたことによって、それぞれ確かな学びの様子が見られた。資料6はそのときの子どもの会話である。

#### 資料6 ペアによる玉結び練習の様子

A : 玉結びが難しくてなかなかできないんだけど。
B : どこ？
A : うまく結び目ができない。
B : ちょっとやってみて。
A : (やってみせる)
B : (ようすをみながら) 人差し指に糸を巻きつけて親指の上ですらすといいよ。Cさんは指をなめたみたいだよ。中指でおさえて、ひっぱってみて。わたしも最初はうまくできなかったよ。
A : おー、できた。わかった。ありがとう。

### (2) 資料・教具の工夫

子どもの確かな力を伸ばすために、子どもが必要に応じて活用できる資料・教具の工夫を行っ

た。本授業における資料の作成については、①子どもが操作できること、②見て分かること、③これまでの既習学習の基礎であること、等をふまえ、以下の資料を作成した。とくに資料8のカード類については、ペアに1セットずつラミネートして渡し、活用できるようにした。手元にあるので、その都度、手順やポイントをしぼることができた。

また、子どもが視聴しながら活動ができるように自作の映像作成、苦手な子どもも一緒にできるようにスロー映像も作成し準備した。一斉指導においては、プロジェクターで前面にくり返し映像が流れるようにした。個人の活動にはいつてからは、DVDプレーヤーやパソコンで映像を流し、必要な子どもが、必要な映像を見ることができるようにした。

このように、個に応じた資料・教具等を作成し活用したことによって、視覚的に刺激を与えることができたため、子どもの「やってみよう」という意識を高めることができた。また、ペアで学習を行うことによって、互いに必要な資料を教えあい、他者の活動から学びあう姿が確認できた。教師はペアの様子を見ながら、助言や支援が本当に必要な子どもから机間指導を行うことができ、必要な資料を配付し言葉かけを行うことができた。授業で作成した資料・教具等は以下のとおりである。

#### ① 掲示物を中心とした教具

- 布を使った製作に必要な基本用具の写真と名前
- 簡単な手ぬい見本（なみぬい、本返しぬい、半返しぬい、かがりぬい）（資料7）
- 簡単な手ぬいの模型（子どもが操作できるもの）
- ミシンの使い方（写真と手順）
- 針の使い方、まち針の打ち方（写真と説明）
- 作品見本（ネームプレート、袋、これまでの児童による作品）、作品の作り方
- 布の裁ち方、正しいはさみの使い方 等

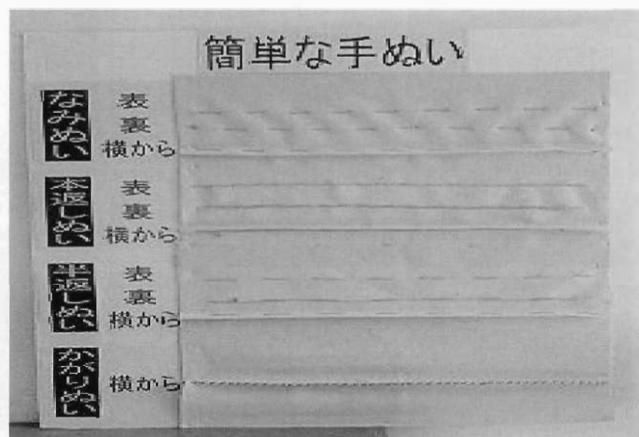
#### ② カードを中心にした資料・教具

- 玉結び、玉どめ、ぬいとりカード（資料8）
- ぬいとりの仕方カード（資料9）
- 基礎ぬいの手順カード 等

#### ③ 教育機器を中心にした教具

- 資料提示装置：教師作成の「玉結び」の映像（資料10）
- パソコン、ビデオ 等

資料7 簡単な手ぬい見本の掲示物



資料8 玉結び、玉どめ、ぬいとりのカード

### 玉結び 1

人さし指に糸をまく

中指でおさえる

親指でおさえる

糸を引く

糸をよりあわせる

できあがり

### 玉結び 2

人さし指に糸をおく

まいた所をおさえる

針を糸の上に重ねる

針を引き抜く

針に糸をまく

できあがり

### 玉どめ

ぬい終りに針をあてる

針を引き抜く

針をしっかりとさえる

針を引き抜く

針に糸をまく

糸は下にひくようにまきます。

糸のばしを切る

指でおさえる

できあがり

### ぬいどり

下書きをする

下から

うらから針をさす

上から

表から針を引き抜く

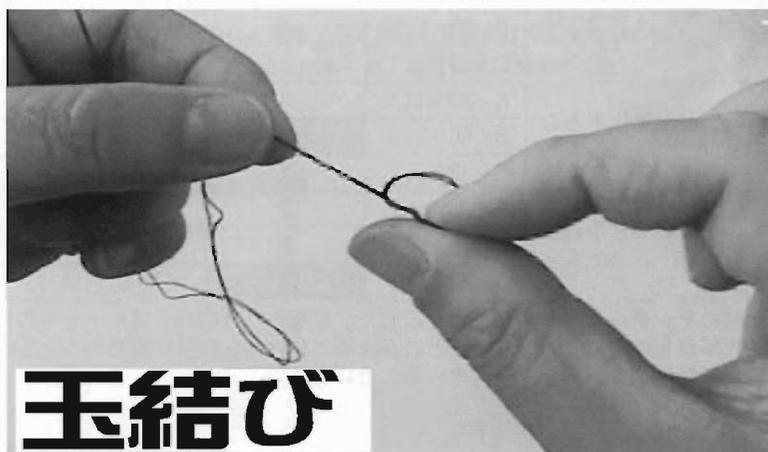
下から針を引き抜く

上から

資料9 めいとの仕方カードを使って製作している様子



資料10 玉結び：教師作成の解説入り映像



(3) 評価の工夫

子どもたちの実態を把握するために、各題材でアンケートを行った。特に技能面については家庭での経験や、子どもの自信度を数値化して把握することにより、学習ペアに生かしたり、自分自身の学習の伸びに気付いたりすることができると思った。以下に示した資料11は、6年を対象にしたアンケート結果で、「生活に役立つ物を作ろう」の授業においての子どもの自己評価の結果である。すでに5年の「針と糸を使って」及び「ミシンを使って」の学習は終了している。6年ではすべての子どもが、なみぬい、返しぬい、かがりぬいなどの簡単な縫い方や、ミシンの操作と直線縫いについては経験済みであり、それぞれの学習の際に、身に付けていなければならない基礎的な知識や技能である。

アンケートは「これから生活に役立つ物の製作を行います。製作に対する自分の自信度を、

100%を最高にして答えなさい」というものであった。子どもたちの授業前の自己評価を見ると、体験の場がほとんどないのに自信度は高い子どもや、十分な技能をもっていながら自信度が低い子どももいた。これは、自分に対する確かな評価の力が身につけていないということである。そこで、教師の評価とあわせながら、学習ペア作りに生かすことにした。さらに、各授業の終わりには、その授業過程での評価や達成度での評価を試みた。作品の評価も行うが、作品そのものの出来ばえだけではなく、何ができるようになったか、分かったことは何か、友達と話し合ったり教えてもらったりしたことは何かなど、活動に対する反省や感想を、ノートや学習カードに記入するように指示した。また、ペアの目をとおした双方向の評価を行うことによって、自分が身につけていることや上手にできないことなどを、客観的に見る目をもつことができた。

資料11 子どもの技能習得の自信度の変化（6年・36人）

教師から見た子どもの様子	子どもによる 自信度の自己 評価	授業前の自己 評価 (人)	試作を行った 後の自己評価 (人)	作品を完成さ せた後の自己 評価 (人)
○基礎をおさえ、確かな知識と技能をもっている： 12人	A 80%以上	4	8	12
	B 50～79%	6	4	0
	C 49%以下	2	0	0
○教えてもらいながら製作することができ： 14人	A 80%以上	6	4	8
	B 50～79%	6	9	6
	C 49%以下	2	1	0
○ほとんど忘れていてできない： 10人	A 80%以上	3	0	2
	B 50～79%	2	4	4
	C 49%以下	5	6	4

(注) 1学級36名のアンケートの結果を人数で示した。左欄の「教師から見た子どもの様子」については、教師が5年生までの評価をもとに3段階に分けた。網掛け部分の子どもについては、自己評価と教師による評価が一致していることになる。

### Ⅲ. 研究成果と今後の課題

本研究では、新学習指導要領をふまえた本校における年間指導計画の見直しを行い、題材配列や題材構成の再検討を行った。特に「C 快適な衣服と住まい」の「(3)生活に役立つ物の製作」を取り上げ、5年の「針と糸を使って」「ミシンを使って」、6年「生活に役立つ物を作ろう」の題材において、確かな学力を身につけるための学習形態及び資料・教具の活用について研究を行った。

以上のような題材構成と指導方法の研究から、以下の点が明らかになった。

- ①題材構成については、2年間の内容を見通して分析したことにより、それぞれの題材や学年において、基礎とする内容や繰り返すことによって技能を高める内容について、より明確になった。
- ②また、それによって子どもに必要な資料や助言等を整理することができた。

③自己評価、他者評価、教師の評価を組み合わせることにより、ひとりひとりの「個の理解度」や「技能の伸び」を蓄積し、子どもへの支援に生かすことができた。

一方、今後の課題としては、一つは、自作資料を作成し活用したが、子ども自身が自分に必要な資料を選択して問題を解決していく力は、まだ十分に育っているとはいえないことである。二つには、このような技能をともなう学習では、個人の能力差や経験差、興味の差などが大きく影響していることである。また、夏季・冬季休暇中における既習事項の家庭での実践化についても差が見られるため、家庭との連携を図り、実践の場を広げ、喜びや達成感を感じ取れるようにする手立てなどが必要であることが明らかになった。これらの課題は、次年度の研究として継続していくことにしたい。

なお、本研究は、平成20年度学部・附属共同研究補助金による研究内容の一部である。

#### 【注記】

- 1) 宮崎大学教育文化学部附属小学校『平成19年度研究紀要 確かな学びのある授業の創造（2年次）』および『同・会録』（平成20年2月）。
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』（平成20年8月）、5ページ、東洋館出版社。
- 3) なお、「言葉かけ」についての研究結果については、外山かおり・伊波富久美・福原美江「家庭科における確かな学びの力を高める授業－学習形態と言葉かけの工夫を中心に－」のテーマで口頭報告した（日本家庭科教育学会・第9回九州地区会、琉球大学、2008年7月）。

#### 【参考文献】

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』（平成20年8月）、教育図書。